

結果の考察と指導改善のポイント

1 教科に関する調査

○ 成果と課題及び指導改善のポイント

- ・ 小学校国語
- ・ 中学校国語
- ・ 小学校算数
- ・ 中学校数学
- ・ 小学校理科
- ・ 中学校理科

2 児童生徒意識調査（児童生徒質問紙調査）

○ 結果の考察と指導改善のポイント

- ア 授業に対する関心、理解、有用性について
- イ 学校での学習について
- ウ 家庭での学習について
- エ 学校生活、家庭生活について
- オ 教師意識調査から

平成30年7月12日（木）

佐賀県教育委員会

1 教科に関する調査

○ 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）


成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成29年度[4月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」ことを問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学5年生³一、中学1年生³一二)
- ◇ 司会の役割を考えながら話し合いを進めることや、司会の役割に基づいて計画的に話し合うことができている。
(小学5年生¹二、中学1年生¹一)
- ◇ 国語辞典の使い方や慣用句の意味、熟語の構成について理解できている。
(小学5年生⁵五、小学6年生A問題⁶、中学1年生⁵三123)
- ◆1 自分の考えを明確にして話したり、自分の立場を明確にして理由を挙げながら話したりすることに課題が見られる。
(小学5年生¹四、中学1年生¹五)
- ◆2 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書いたり、資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題が見られる。
(小学6年生B²二、中学1年生²五)
- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉えることに一部課題が見られる。
(小学5年生⁵三1、小学6年生A⁵、中学1年生⁵五12)

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自分の考えや立場を明確にしながらか話し力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童が目的と意図を理解してから、話したり聞いたりする活動に取り組んでいますか。
 - 発表原稿やスピーチメモなどの模範となる例を示すことで、構成の仕方について児童が理解できるようにしていますか。
 - 声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体や常体との使い分けなど、その場に応じた適切な表現の仕方について指導していますか。
 - 話す活動の後に、自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置付けていますか。
- ◆2 資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたり、話の中心を明確にして詳しく書いたりする力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 何のために引用するのかという目的や、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、児童が書く目的や意図を理解できるようにしていますか。
 - 教師が書いた文章や教科書の例文などのモデルとなる文章を提示し、どの児童も書くことができるようにしていますか。
 - 「○字以内で書く」、「○分以内で書く」といった字数や時間だけでなく、書き出しを指定して書かせるなど、条件を与えて書く活動を授業に位置付けていますか。
 - 自分が書いた文章を児童自身が推敲するだけでなく、互いに読み合っってよいところを伝え合う活動を授業に位置付けていますか。
- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉える力を育成するためには、書く活動や読む活動などで、次のような指導を行うことが大切です。
 - 読む活動では、述語に照応する主語を見付けたり、主語が省略されている文に主語を補ったりするようにしていますか。
 - 書く活動では、書いた文の主語と述語が照応しているかを、児童自身で確かめたり、互いに読み合っって確かめたりするようにしていますか。
 - 単文・重文・複文といった文の構造や、呼び掛けや疑問、推定や伝聞を表す文の性質や機能など、いろいろな文の構成に気付くような場を設定していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)


- ◇ 全体と部分に注意して話を構成したり、話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたりすることができている。(中学2年生¹三、中学3年生A¹一)
- ◇ 伝えたい事柄について効果的に記述したり、書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したりすることができている。(中学2年生²三、中学3年生A²一)
- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりすることに一部課題が見られる。(中学2年生¹四、中学3年生B²三)
- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりすることに一部課題が見られる。(中学2年生²二、中学校3年生B¹三)
- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりすることに課題が見られる。(中学2年生³三、中学3年生B¹一)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 話を聞く場面や話合いの場面で、相手が何を伝えようとしているのかを話のまとまりごとに整理するような言語活動を授業に位置付けていますか。
 - 例えば全校集会で行われた校長先生の話について要旨をまとめさせるなど、日常生活の中の話を注意して聞くことができるような機会を授業に位置付けていますか。
 - 対話や話合いの場面では、相手の伝えたいことと、それを支える部分の関係を検討し、納得したり、合意形成したりできるように指導していますか。

- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書いたものについて、生徒自身が読み直すだけでなく、推敲の手引きなどを基にして、互いに修正したり訂正したりするような活動を授業に位置付けていますか。
 - 必要な条件や情報を教材から抜き出し、整理した上で目的に応じて再構成するような学習活動を授業に位置付けていますか。

- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。
 - 少人数のグループで生徒の考えを引き出し、学級全体でつなぐような話し合う活動を授業に位置付けていますか。
 - 文章を図表と関連付けながら読んだり、思考ツールなどを活用して文章を図化したりする活動を授業に位置付けていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 小数や分数の加法、整数や分数の除法、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。
(小学5年生 $\square 1$ (1)(2)(4)、中学1年生 $\square 1$ (1)(2)(3)(4))
- ◇ 分度器を用いて角の大きさを求めたり、 180° の角の大きさを理解したりすることができている。
(小学5年生 $\square 9$ (1)、小学6年生A $\square 5$ (1))
- ◇ 立方体の展開図、点対称な図形における対応する辺の位置関係、線対称な図形における対応する点の位置関係を理解することができている。
(小学5年生 $\square 8$ 、中学1年生 $\square 4$ (1)(2))
- ◆1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味の理解に課題が見られる。
(小学5年生 $\square 2$ (1)、小学6年生A $\square 2$)
- ◆2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の理解に課題が見られる。
(小学6年生A $\square 7$ (1)(2)、中学1年生 $\square 6$ (3))
- ◆3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することに課題が見られる。
(小学6年生B $\square 5$ (1)、中学1年生 $\square 11$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

問題場面を具体物や図と関連付けながら立式したり、その結果を確かめたりする活動を授業に位置付けていますか。

児童が立てた式を基に、「どうしてその式を立てることができるか」ということを、数、式、図や言葉等と関連付けながら説明する活動を授業に位置付けていますか。

正しい式だけでなく、誤った式も意図的に示すなど、どうしてその式では正しくないのかを説明する活動を授業に位置付けていますか。

- ◆2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

円について、「直径の長さとの間に何か関係がありそうだ」と気付かせ、円周の長さは直径の長さの何倍になるかと見通しを持たせてから、直径の長さとの関係を調べる活動を授業に位置付けていますか。

直径の長さとの関係を調べる活動では、どのような大きさの円についても、円周の長さの直径の長さに対する割合が一定であることを見いだす活動を授業に位置付けていますか。

- ◆3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

示された情報を図に表したり問題解決に関係のある数量を取り出して表に整理したりして、複数の情報を関連付けて問題解決に必要な数量を見いだす活動を授業に位置付けていますか。

式と答えだけでなく、立てた式の根拠や求めた数値が何を表しているかを説明する活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校数学（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文字式の加法と減法の計算や単項式どうしの除法の計算をする技能が身に付いている。
(中学2年生 $\boxed{1}$ (3)、中学3年生A $\boxed{2}$ (2))
- ◇ 空間における直線と直線との位置関係や、多角形の内角の和の性質を理解することができている。
(中学2年生 $\boxed{6}$ (3)、中学3年生A $\boxed{6}$ (2))
- ◇ ヒストグラムから度数を読み取ったり、与えられた資料から中央値を求めたりすることができている。
(中学2年生 $\boxed{11}$ (1)、中学3年生A $\boxed{14}$ (2))
- ◆1 錐体の体積は、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の $\frac{1}{3}$ であることへの理解や、錐体の体積を求める技能に一部課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{6}$ (5)、中学3年生A $\boxed{5}$ (4))
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することに課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{8}$ (4)、中学3年生A $\boxed{11}$ (2))
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることに課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{5}$ (3)、中学3年生B $\boxed{2}$ (2) $\boxed{3}$ (3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック してみましょう。）

- ◆1 錐体の体積が、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解し、錐体の体積を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 底面積と高さが等しい柱体と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験で確かめるなど、実感を伴って理解することができるような活動を授業に位置付けていますか。
 - ある錐体の体積を求めるために、どのような見取図をかいて、どの要素が分かればよいかなど、体積を求めるまでの見通しを持つことができるような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 数量の関係を表に表した場合には、それを式やグラフに表すことによって表には表れていない値の組を求めさせたり、式に表した場合には、それを表やグラフに表すことによって変化や対応の様子を具体的に捉えさせたりして、それぞれの表現のよさを考える活動を授業に位置付けていますか。
 - 表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるように、ある一つの関数関係を例として、表、式、グラフにまとめる活動を授業に位置付けていますか。
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 実生活における問題を、数学を活用して解決する場面を設定し、具体的な数を用いて式に表す活動や、表した式の意味を読み取る活動を授業に位置付けていますか。
 - 説明の構想を立てる場面において、問題解決の見通しが持てるよう、どのような根拠を示せばよいのかを考える活動を授業に位置付けていますか。
 - 自分の考えを持たせた上で、自分の説明と他者の説明を比較し、不足する表現を加えさせるなど、よりよい説明にする活動を授業に位置付けていますか。
 - 事象について、グラフなどの用いるものをはっきりとさせ、どのように用いるか説明する場面を設定し、数学的な表現を用いて説明し合う活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

小学校理科（小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 骨と骨のつなぎ目や堆積作用について、科学的な言葉や概念が身に付いている。 (1)(3)(2)(1)
◇ 海水と水道水を区別するために、蒸発させる実験と同体積の重さを量る実験の2つの異なる実験から得られた結果を多面的に分析して考察することができている。 (4)(2)

- ◆ 1 理科に関する知識・技能を、模型や理科における「ものづくり」などに適用することに課題が見られる。 (1)(4)(3)(4)(4)(3)
◆ 2 土地の浸食や電気の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題が見られる。 (2)(2)(3)(2)
◆ 3 流れる水の量と地面の削られ方の関係について、より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られる。 (2)(3)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 理科に関する知識・技能を自然の事物・現象に適用する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。


- 予想をする場面で、学習を通して得た知識や生活経験を、目の前の事象と関係付けて表現する活動を設定していますか。
 学習を通して得た知識と、観察、実験の結果から言えることを比較して表現する活動を設定していますか。（例：金属の温まり方で学んだことと、水の温まり方の実験結果から言えることを比較して、「金属と水では、温まり方が違う」ということを表現する活動）
 観察、実験などを通して得た内容について、模型や図を用いて説明する活動を設定していますか。
 実験の結果から得られた性質や働き、規則性などを活用した「ものづくり」において、実際につくったものが目的に合ったものであるか振り返らせ、必要に応じて作り直すように指導していますか。

- ◆ 2 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。

- 学習で解決すべき問題に対する予想をする場面で、児童から出された予想とその根拠について、整理して提示していますか。
 観察、実験の前に、児童から出された予想について、どのような実験結果であればその予想が確かめられたと言えるかを表現する活動を設定していますか。

- ◆ 3 より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。

- 観察、実験の後、観察、実験の方法と結果を併せて表現する活動を設定していますか。（例：種子に養分があるか調べる実験の後、「発芽する前の種子の切り口にヨウ素液をかけた。その結果、子葉の部分が青紫色になった。」ということなどを表現する活動）
 結論を導き出す場面で、結論とその根拠を区別して表現するように指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校理科（中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 豆電球やLEDの点灯の様子と電力とを関係付けて考えたり、地震の記録から主要動が始まるまでの時間について考えたりすることができている。 (6)(3)(7)(2)
- ◇ 地震や音の速さ、動物のからだのつくりの特徴に関する知識を、日常生活の場面において活用することができている。 (2)(1)(7)(3)
- ◆ 1 感覚器官に入った刺激が感覚神経に伝わることや、S波による揺れが主要動であることなどの知識を身に付けることについて課題が見られる。 (5)(1)(7)(1)
- ◆ 2 実験を計画する場面において、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を考えたり、炎の色と金網に付くススの量を調べるための「変える条件」や「変えない条件」を設定したりすることに課題が見られる。 (4)(2)(9)(2)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 感覚器官に入った刺激が感覚神経に伝わることや、S波による揺れが主要動であることなど基礎的な知識を身に付けさせるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 自然の事物・現象についての概念や原理・法則を学習する際は、観察、実験などを通して、生徒が自ら概念や原理・法則を見いだせるようにした上で理解できるようにしていますか。
 - 感覚器官や感覚神経などの学習において、それぞれの語句をただ覚えさせるのではなく、神経と器官での信号の伝わる経路について説明する活動を通して、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。
 - 地震の学習では、マグニチュードや震源からの波の広がり、波が到達した地点での初期微動と主要動の切り替わりなどについて、モデルを用いて説明して、スケールの大きなものを実感を伴って理解できるようにしていますか。
- ◆ 2 実験を計画する場面において、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を考えたり、炎の色と金網に付くススの量を調べるための「変える条件」や「変えない条件」を設定したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 実験を計画する場面を設定し、生徒がどのような実験を行えば自分の仮説が正しいと言えるかを考えることができるようにしていますか。
 - 複数の条件が関係する実験について考える活動を設定し、実験の前に生徒が「変える条件」「変えない条件」を考えることができるようにすることで、小学校での学習の系統性を意識できるようにしていますか。
 - 観察を行う前に、観察を計画する機会を設け、生徒が観察対象のどこに着目して特徴を見いだすのかを考えることができるようにしていますか。
 - 観察、実験を行った後に、自分が立てた計画が妥当であったかどうかを振り返る機会を設け、生徒がより質の高い計画を立てることができるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

2 児童生徒意識調査（児童生徒質問紙調査）

○ 結果の考察と指導改善のポイント

ア 授業に対する関心、理解、有用性について

「各教科の勉強は好き」「各教科の授業の内容はよく分かる」「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合が、これまでの調査結果と同様に概ね6割から9割となっており、比較的高い水準を維持している。この結果は、教師が指導改善について日々向き合い、取組を続けてきたことに起因していると考えられる。

全面実施が控えている新学習指導要領には、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら指導改善に向かう必要があることが示されている。このことを踏まえることが児童生徒の「授業に対する関心、理解、有用性」を高めることにつながると考えられる。

（指導改善のポイント）

□ コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ

従来の学力については、どれだけの知識を有しているかがその評価（例えば、テストの成績）の対象の多くの部分として捉えられてきたところがある。いわゆる「内容」を重視（コンテンツ・ベース）した学力観とも言える。新学習指導要領においては、「資質・能力」をより一層確実に育むこと（コンピテンシー・ベース）が求められている。学んだことを実生活の様々な場面で活かす（活用する）ことができるような指導の在り方について考える必要があることを求められているとも言える。

平成27年度から取り組んでいる「児童生徒の活用力向上研究指定事業」では、今年度、新たに8中学校区23校（義務教育学校1校含む）を指定し、県内16中学校区47校（義務教育学校1校含む）で研究が推進されている。このような先進的な取組等も参考にしながら、児童生徒の活用力を高め、児童生徒に学習内容の有用性を実感させることができるような指導を工夫する必要がある。

イ 学校での学習について

「授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合は全体的に増加している。特に、中学校における伸びが顕著である。教師意識調査の「ノートのとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか」という問いに「多くの単元で行っている」と回答した教師が中学校で増加していることとも呼応している。

新学習指導要領の全面実施を控え、各学校においては、示された理念の実現に向けた取組がなされ始めている。「授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに多くの児童生徒が肯定的な回答しているのは、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善への取組の状況を反映しているものと思われる。

（指導改善のポイント）

□ 主体的・対話的で深い学びの実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現については、平成29年3月に告示された学習指導要領「第3節 教育課程の実施と学習評価」に、次のような3つの視点が示されている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

以上の視点については、1単位時間で全てを網羅するのではなく、単元の中でどのように位置付けるのかを考えておく必要がある。

ウ 家庭での学習について

家庭学習の時間は、校種・学年によって、いくらか増減があるものの全体としては大きく変わらない。また、学校の宿題に対する児童生徒の取組状況はこれまでと同様に高い水準にある。このことは、学年や学習内容に合わせた宿題を教師が児童生徒に与え、多くの児童生徒が確実に取り組んでいることの表れだと考えられる。

一方で、教師意識調査の「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか」という問いに肯定的に回答した教師の割合は、小学校で約8割、中学校で約6割となっており、共通理解が十分に図られていない状況が分かる。内容や量、教科のバランスについては、教職員間で適宜協議し、児童生徒の実態に応じた宿題を出すことが、家庭での学習の質を上げることにつながると考えられる。

(指導改善のポイント)

□ 家庭学習への取組の充実

家庭学習については、「家庭で学習をする」という習慣を早い段階から身に付けておくこと、家庭学習に取り組むことによって知識や技能等が身に付くこと等が取組の目的となると考えられる。習慣を身に付けることについては、家庭と連携した指導が欠かせない。また、知識や技能等が身に付いたかどうかについては、取組後の評価(点検)が欠かせない。そして、これらのことを学校と家庭、教師同士が連携して、組織的に取り組むことが欠かせないとする。取り組むこと自体が目的になってしまうような「やりっ放し」の状態になるのではなく、宿題を出すことの目的を改めて共通理解することによって家庭学習の取組の充実を図っていく必要がある。

エ 学校生活、家庭生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合はいずれも8割から9割であることから、これまでと同様に多くの児童生徒が楽しく学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組むことができていることがうかがわれる。

平日に2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合、テレビゲームをする児童生徒の割合は、いくらか増減があるものの全体としては大きく変わらない。一方、平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は全体的に増加している。児童生徒にとって

携帯電話やスマートフォンがこれまで以上により身近な存在となっていることを表していると言える。

(指導改善のポイント)

□ 学力向上の基盤となる環境の改善

学力向上を図る基盤として、児童生徒が楽しい学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組める環境が整っているということは大切な要件である。県全体としては良好な状態にあると考えられるが、それぞれの学校においては、児童生徒一人一人に目を向け、個に応じた良好な学習環境が整っているかどうかということを定期的に確認し、学校全体としての取組について適宜改善を図ることが必要である。

□ 家庭での過ごし方の見直し

授業に集中できない児童生徒の多くが、家庭での過ごし方に何らかの課題を抱えているとの報告が多く調査でなされている。「早寝・早起き・朝ごはん」のように家庭での生活リズムを向上させることが、学校生活を含め、児童生徒の生活習慣全般の向上につながることは言うまでもない。家庭での学習時間や生活の様子を記録させるなどして、家庭での様子を把握している学校や教師は多いと思われるが、家庭での過ごし方の見直しについては、家庭と連携しながら適宜指導することが必要である。また、児童生徒自身(特に、小学校高学年や中学生)が自分の家庭での過ごし方を見直し、主体的に改善を図ることができるような指導を行うことが必要である。

オ 教師意識調査から

教師意識調査の「授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか」という問いに肯定的に回答した教師の割合は小学校、中学校ともに9割を超えているものの、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか」という問いについては、小学校、中学校ともに減少している。このことは、学習過程を意識して取り組もうとしているものの授業の終末の時間が十分確保できていない状況にあるということが分かる。学習過程については、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の活動ごとの軽重はあるが、基本的な流れは変わらないと考える。小学校では45分間、中学校では50分間の学習過程を事前に踏まえて授業に臨むことが必要だと思われる。

(指導改善のポイント)

□ 「授業づくりのステップ1・2・3」の積極的な活用

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、学習者主体の授業づくりを行うことが必然となる。「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」では、授業づくりの基本的な視点を「めあて」、「まとめ」、「書く活動」、「話し合う活動」、「振り返り」の5つに焦点化し、それぞれを3つのステップで示している。また、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」では、「書く活動」、「話し合う活動」に焦点をあて、それぞれにおける教師の主な役割について示している。ぜひ、自らの授業の日々の振り返りや校内授業研究会での参観の視点などに積極的に活用し、児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」となっているかどうかといった視点で不断の見直しを図り、授業の質的改善につなげてほしい。

カ 地域別の状況から

地域間の学力差は、10区分(小学校6年生及び中学校3年生の理科を除く。)中7区分で縮小している。これは、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」の全県的な取組等により、「めあての提示」などをはじめとした指導実践が定着してきたことが要因として考えられる。また、「平日1時間以上の家庭学習時間」については、中学校では昨年度と同程度であったが、小学校では改善されるなど、家庭学習の充実が図られてきたと考えられる。質問紙調査においては、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」や「学習規律(私語をしない等)の維持を徹底している」について「よく行った」と回答した割合が高い地域は、正答率が高い傾向にある。また、「一連のPDCAサイクルを確立している」と「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った」割合は、平均正答率との親和性が高い傾向にある。

(指導改善のポイント)

□ 授業改善リーフレットのさらなる活用促進

地域間の学力差のさらなる縮小に向け、今年度配布した「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」や「数学リーフレット」も含めて、授業改善リーフレットのさらなる活用促進を行い、授業の質的改善につなげることが大切である。

□ 家庭学習の充実

生活習慣を含めた家庭学習の充実に関する家庭の意識を高めていくための、「家庭学習の手引きリーフレット」の活用や家庭学習の質の充実を図るため、宿題の内容や量が児童生徒の学習内容や学習状況を踏まえたものになるよう取り組むことが大切である。

□ PDCAサイクルの徹底

調査結果をもとに、正答率や無解答率のみならず、誤答傾向や児童生徒のつまずきについての分析を行い、全職員の共通理解のもと、「学力向上対策評価シート」に基づく成果の継続と課題解決に向けた取組を行い、PDCAサイクルをより徹底させることが大切である。

以上、意識調査結果の考察と指導改善のポイントについて示している。各学校の実態や学校を取り巻く環境はそれぞれに異なると思われるので、各学校においても調査結果についての考察を行い、参考となる指導改善のポイントについてはぜひ活用していただきたい。

